

令和4年度 学校自己評価中間報告書

石川県立七尾特別支援学校輪島分校

重点目標		具体的取り組み	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	中間結果	分析（成果と課題）
1	授業実践力の向上	① 知的障害のある児童生徒を対象とした特別支援学校における教科指導の充実事業に合わせ、本校における教科指導の充実を図る。学部研究の中で教科の指導内容が分かる資料を作成し、授業実践を行い、教科の視点での評価を明確にすることで授業改善につなげる。	学習支援課	【満足度指標】（教員） 7月と12月にアンケートを取り、教員が教科の視点で授業計画を立て、実践・評価を行い、授業改善につながったと感じることができた教員の割合を測る。 4：大変あると感じる 3：ある程度あると感じる 2：あまり感じない 1：全く感じない	アンケート結果が A：4と3合わせて80%以上 B：4と3合わせて70%以上 C：4と3合わせて60%以上 D：4と3合わせて60%未満 【達成目標B以上】	4: 25% 3: 75% 2: 0% 1: 0% 4と3合わせて100%であった。 【A：100%】	年度当初の学部研において、年間指導計画、個別の指導計画作成を、各教科の学習指導要領の指導内容を確認して行ったことで、教科の視点をもって日々の授業実践を行うことができています。 今後は、教科の視点をもって評価を行い、さらに授業改善につなげていく必要がある。
学校関係者評価委員会の評価			教科の視点をもった評価について保護者や地域の方々にも共有され、地域で育つ子どもたちの育成ができることよい。それが、キャリア教育にもつながる。教職員が授業改善を行ったと感じる割合が100%と思えることが良い。教科横断的に学習に取り組んでいることも評価できる。				
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策			評価規準については試行錯誤中である。後期に向け、児童生徒が知識として何を理解し、自分の考え、思考をどのように表現するか、また学んだことを将来に生かすことができるか、を踏まえ評価規準の作成に取り組んでいく。				
2	組織的・体系的なキャリア教育	① 児童生徒が自らの学習状況やキャリア形成に見通しをもって取り組み、振り返りを行うことで、自身の変容や成長を感じ、学びの蓄積ができるように輪島分校版キャリアパスポートを作成する。家庭へは、学期毎にキャリアパスポートを持ち帰り、児童生徒の変容や成長を共有できる機会を設ける。	学習支援課	【満足度指標】（保護者） 7月と12月にアンケートを取り、キャリアパスポートを通して児童生徒の変容や成長を感じることができた保護者の割合を測る。 4：大変あると感じる 3：ある程度あると感じる 2：あまり感じない 1：全く感じない	アンケート結果が A：4と3合わせて80%以上 B：4と3合わせて70%以上 C：4と3合わせて60%以上 D：4と3合わせて60%未満 【達成目標B以上】	4: 約10% 3: 約80% 2: 約10% 1: 0% 4と3合わせて約90%であった。 【A:約90%】	成果として、4と3に回答された保護者のうち、「児童生徒のがんばっている様子を知ることができた」と回答した割合は約79%であった。これは、学校行事等の振り返り等をキャリアパスポートに綴ることによって生徒の成長を感じることができたと思われる。 課題として、高等部の書式は保護者からのコメント欄を設けていなかったが、設けることでより家庭と連携したキャリア教育が進めたいけると考える。
学校関係者評価委員会の評価			輪島分校版のキャリアパスポートとして作成したものが廊下に掲示されており、いつでも振り返ることができる点が良い。他者との関わりや考える力、つながる力、生き方の指導を継続してほしい。				
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策			高等部の生徒のキャリアパスポートは保護者からのコメント欄を設定しなかったため、保護者の感想が得られなかった。また、生徒とも保護者の思いを確認することが難しかった。後期は高等部の保護者からも生徒の変容や成長に対し、感じたことを記載していただけるよう書式を工夫する。				

3	安心・安全な学校作	① 学校保健として、生きる力をはぐくむ歯科保健指導に取り組む。一人一人の発達段階に考慮しながら、歯・口の健康作りの活動を通して、健康意識や健康行動の変容を促し自立に向けた態度や習慣を身につけるよう継続的に指導する。	生活支援課 【努力指標】（教員） 治療率を上げ、う歯の保有率が改善されたかで評価する。 4：う歯保有率0％ 3：う歯保有率10％未満 2：う歯保有率20％未満 1：う歯保有率20％以上	2回の歯科検診と受診結果報告書から A：う歯保有率0％ B：う歯保有率10％未満 C：う歯保有率20％未満 D：う歯保有率20％以上 【達成目標 B 以上】	受診結果報告からう歯保有率は14.3％でC。 【C：う歯保有率20％未満】	6月、小学部が全国はみがき大会に参加した。これをきっかけに教科と連携し歯のしくみ、大切さ、磨き方等を学んだ。治療が必要な児童生徒には、1学期末に2度目の治療報告書を配付。11月には2回目の歯科検診を予定している。学校、家庭、地域（歯科医）と連携しながら治療を促し、う歯保有率0％を目指したい。
学校関係者評価委員会の評価			学校ではどのように歯みがきを行っているかわからないが、自宅での歯みがきは時間を設定し仕上げ磨きをしている。学校と家庭でさらに連携して取り組めると良い。分校で歯みがきの歌を作成することも一つの方法かと思われる。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策			歯みがきについては家庭の協力、歯科医師との連携が必要と思われる。引き続き、齲歯の保有率が0％となるよう取り組んでいく。			
4	業務の効率化	① ICT活用と書類や電子データ等の情報を整理・整頓し、ファイル等を適正に管理して計画的かつ効率的に業務に取り組む。取り組み例として諸会議等の資料のペーパーレス化、机上整理等を行う。	全教職員 【努力指標】（教員） 8月と1月にアンケートをとる。 情報を整理し効率的な業務となるよう工夫した回数が学期に3回以上の教員の割合が A 80％以上である。 B 70％以上である。 C 60％以上である。 D 60％未満である。	アンケート結果で「情報を整理し、工夫して業務に取り組むことができた。」と答えた教員の割合が A：80％以上 B：70％以上 C：60％以上 D：60％未満 【達成目標 B 以上】	3回以上整理整頓を実施した職員の割合は72％ 2回が22％ 1回が6％ 【B：70％以上】	3回以上整理整頓を行った教員のうち、書類の整理を行ったと回答した職員の割合が53％であった。 unnecessary書類の廃棄やペーパーレス化したり机上を整頓したりすることで仕事がしやすい環境が整い、探す手間やミスが減り作業効率が上がったと感じた職員が多かった。無駄な書類が多かったり過去の書類や簿冊の整理ができなかったりすることもあり、今後は必要な書類や簿冊を整理し、より効率的に業務が遂行できるよう取り組みたい。
学校関係者評価委員会の評価			ICT活用は時代に応じた活用だが、会議資料等ペーパーレスでよいものと紙媒体で配付すべきものを区別している点が良い。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策			業務を遂行しやすい環境を整えることができるよう、引き続き取り組んでいく。			